

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4150180018		
法人名	医療法人 清友会		
事業所名	グループホーム 和泉		
所在地	佐賀市久保泉町川久保5457番地		
自己評価作成日	平成30年10月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年12月13日	外部評価確定日	平成31年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>病院併設のグループホームである為、医療との連携が密に行えるようにしている。また、状態の変化が生じた場合、すぐに医師・看護師が来室できる体制が整っている。</p>

<p>騒音も気にならない、自然豊かな広々とした敷地内に母体の病院、介護老人保健施設、デイケアセンターが隣接し、その一角に事業所は位置している。職員はゆっくり、一緒に楽しみ、自分らしい生活が出来るよう支援している。利用者の好みに合わせた食事や、趣味を活かした作品等が多く掲示しており、暖かさが伝わってくる。趣味の作品展に出品している利用者もいる。高台に位置するため居間からの見晴らしも良く、季節の移り変わりも感じる事が出来る。、バルーンの飛来も良く見え、楽しみになっている。居間は天窓で明るい。台所は対面キッチンになっており、匂いや、音が家庭的でゆっくり過ごされている。畳の間にはアルバムがあり、訪れた家族は普段の様子を知る事が出来る。トイレも4か所と多いが臭いは感じられない。加湿対策として洗面台に水を溜めたり、濡れタオルで対応している。静かな環境は利用者にとって落ち着く場所である。1階には繋ぎ廊下とエレベーターで安心して行けるのも利用者にとっては魅力である。</p>

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で「その人らしく」生活していただけるよう、職員一丸となって取り組んでいる。	法人の理念及び事業所独自の理念を事務所に掲示されている。入社時には説明をしている。検討会や職員会議等で確認もしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機会がある時には地域の行事や活動に参加したり、常に見学などの受け入れを可能にしている。	法人が一括で自治会に加入している。神社のお祭りに行っている。 法人の畑でディーサービスの方々と野菜作りが交流の場となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人での取り組みはしているが、事業者単独での取り組みは行っていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果について報告を行い、委員から意見を聞いている。	2か月に1回定期的に開催されている。行事予定や利用者の状況、季節毎の注意事項等の報告がされている。家族にも案内は出されているが参加は無く入所者の参加は毎回多い。	サービスの向上を図る上からも家族の参加が望まれる。 事業所の行事に合わせ運営推進協議会が開かれること等が検討されているので、今後期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議で行っている。また、法人担当者が市町村との連携を行っている。	困りごとや相談は法人が窓口になっている。人材やスキルもあるため部内での解決が可能となっていることも理由のひとつである。事業所の実情や課題は行政とも共有されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。また玄関の施錠も必要以上は行っていない。	職員の研修は法人の内外の研修会を通じて、年4、5回行われている。言葉使いもトーンを下げたり、方言も柔らかく使っている。身体拘束の禁止や弊害については理解されている。会議録は職員全員に報告している。玄関に施錠は無く、目配り、気配りで安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないように注意を払っている。また、虐待防止に関する勉強を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には法人相談員と連携を図り、支援できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族より要望を伺うようにしている。また玄関に、ご意見箱を設置し運営推進会議にも参加を呼び掛けている。	家族とは、日頃から話易い雰囲気をつくっている。面会時には利用者の様子を伝え、要望も聞いている。ケアプラン等送る際には近況や写真等を送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月検討会を実施し、法人からも参加している。また、日々の業務の中でも意見が反映できるように取り組んでいる。	月1回の職員会議で意見や要望を聞き、取り上げられた問題は法人で検討される。法人内の異動もある。職員間のコミュニケーションはよくとられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し(申請書の提出)、必要時には個人面談を行い、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月勉強会を実施し、施設外研修などにも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の他のグループホームと毎月勉強会を実施し交流している。また、地域包括支援センターの勉強会等にも出席し、地域の事業所と交流している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前や入居時に面談を行い、要望などを聞きながら情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前や入居時に面談を行い、要望などを聞きながら情報収集に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族などから要望を聞き、必要であれば他のサービスも利用できる体制は出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、洗濯物たたみ等を手伝っていただいたり、行事の際に習わしを教えて頂いたりしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡などで近況を報告し、必要時には要望を聞きながら計画を作成している。また、運営推進会議に全家族へ毎回参加を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、馴染みの美容室へカットに行かれたり、法要へ出席されている。	近所の人や友人、サービスから面会に来られる際にはお茶等の接待をしている。入院中の御主人に面会に行ったり、馴染みの美容院に通う利用者もある。家族が切手を預け、手紙を書いてもらったり、電話をかけたり、携帯電話を持つ人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備や洗濯物たたみなど、入居者同士で協力し合って生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用されている病院や施設に面会に行ったり、家族と会った時に話をしたりしている。必要時に相談員などとも連携を図ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様や入居者家族と相談しながら決めている。	入浴時やおやつの時間にゆっくり話ができる。行動や表情から様子を汲み取るように努め、そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様についての連絡表や相談記録などがあり、生活歴の把握に努めている。また、入居前のケアマネや家族にも情報提供を試みている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者それぞれの言動や手伝いの内容、レク等への参加の有無などを記録し把握している。またその内容を毎月の検討会で情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や電話連絡の際に家族の意見を尋ねている。また検討会の時に本人の考えや状況を伝え、職員の意見も反映している。	担当制で日頃から声かけをし、希望や、意見を確認し職員で話し合い、現状に沿った介護計画を作成している。 モニタリングは毎月行い、ケアマネジャーが主導ではあるが、全員で話し合っている。状況は日々変わる事もあるので必要に応じて、その都度検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状況を出来るだけ詳しく記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、公共機関などに理解を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望があれば、入居前のかかりつけ医への受診なども継続して頂いている。	かかりつけ医には基本的には家族が付き添い、緊急時には事業所が代行する。母体が病院なので夜間の緊急受診や相談が出来るので、家族も職員も安心である。歯科は訪問診療で受診されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日デイケアの看護師と直接話をしながら情報交換を行っている。また緊急時は電話で指示を頂いたり、併設の病院からも来ていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院の医師や看護師、ソーシャルワーカーと情報交換を行いながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りに関する指針の説明を本人や家族に行い、同意を得ている。また本人の状態の変化に応じて随時チームで話し合い、家族に話をしている。	指針があり職員の体制も整っている。これまでに看取りの経験はないが、希望があればその用意はある。必要に応じ主治医から家族や関係者に説明され対応できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い、対応出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回のグループホーム主体の防火訓練を法人全体で行い、マニュアルの確認をしている。	母体と、事業所で合計4回夜間も想定し、利用者全員と母体からの応援の参加を得ての訓練をしている。地震対策としてタンスには転倒防止がされている。食料は母体に備蓄され、水は事業所に保管している。ディケアに通ずる扉は防災扉が付けてある。近隣住民や地元の消防団の参加までには至っていない。	緊急時には併設事業所からの応援もあり訓練されているが、職員だけの避難誘導の限界がある事も踏まえ、近隣住民等の協力も得られるよう、今後検討される事を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様中心の生活の場であることを認識し、言葉使いや態度など細心の注意を払っている。	法人で外内部講師による接遇研修されている。ことば使いには心掛けている。語尾を下げ、大声は上げない等その人に沿うような言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様本人と会話をする中で、入居者様自信が自己決定出来る環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のしたいことを確認し、本人のペースでできるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔から愛用していた化粧品を使用したり、定期的にマニキュアを付けられている。また共用の化粧類も準備している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前日に翌日のメニューの希望を聞いたり、準備や後片付けを一緒に行ったりしている。また一人一人の状態にあった食事形態や工夫を行っている。	以前は食材の買い物にも行っていたが年毎に困難である。現在は外部より取り寄せている。敬老会、ひな祭り、誕生日等の行事食作りには希望に応じている。献立のチェックは法人の栄養士がされ、アレルギーの確認もしている。職員の1人は検食、他の職員は弁当でテーブルに付き、目配りしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下状態に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行っている。また義歯の方は入れ歯洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、各自の排尿パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。	排泄表により2時間ごとに声をかけ、排泄の自立に向けて支援している。夜間もポータブルトイレやセンサーマットの使用はないが、家族の許可を得て布団の端に鈴をつけている居室もある。排泄改善が見られた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、繊維質の多い食事を定期的に提供したり、活動やレクリエーションや腹部マッサージ等で便通を良くする工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	湯の温度や時間帯を一人一人に確認しながら入って頂くようにしている。	希望があれば毎日対応できる体制をとっている。入浴されない時は足浴、清拭、シャワー、ドライシャンプー等で対応し、下着の交換もしている。入浴剤を使用し楽しんでもらうように工夫もしている。 浴室の手すりには色付きのテープを巻き、つかまる位置の目印になっている。脱衣室の室温にも配慮が見られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者様の状態に応じて休息の声掛けをおこない、夜間寝つきが悪い時は足浴やホットミルクを提供できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の状況を把握し、薬の変更があればその都度、薬辞典で確認したり、看護師や薬剤師に聞いたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴や和泉での生活に合ったお手伝いや作業をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気のいい日は外に出たり、併設のデイケアセンターへ散歩に行ったりしている。また家族の協力のもとで墓参りなどに行かれている。	家族の支援で一時帰宅したり、家族と共に外出に出かける方もある。 季節毎の花見のドライブに出かけている。春の敷地内の桜見には各施設から集まり、シートを敷いておやつやお茶を飲みながら日光浴での気分転換を楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりは行っておらず、また買い物も行ってない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡が出来るようにしている。手紙を出されり、携帯電話を所持している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースにはブラインドや天窓があり、光や風の調整が出来るようになっている。また季節に応じた飾り付けを行っている。	朝、居間の窓を開けて換気をしている。天窓があり、部屋全体が明るい。 掃除は業者に依頼し清潔で、夜間には消毒もしている。廊下や居室には障害物も無く、いやな臭いも感じない。花や利用者の貼り絵が見事である。 居間の一角に畳の間があり、テレビ、アルバムが置かれ、いつでも見る事が出来るようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳みスペースや座椅子があり、自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明し、家で慣れ親しんだ物を持ってきて頂けるようにしている。また、その時の写真や作品などを飾り、その人らしい部屋作りを行っている。	居室は掃除も行き届き整理整頓されている。 写真、花、折り紙作品、職員から誕生日にプレゼントされた刺繍等が飾られている。 居室の加湿対策に洗面台には水を張ってある。 2人部屋ではお互いに支え合いながら仲良く生活されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、テープでの目印、浴槽の滑り止めなどで安全に配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない